



令和4年度 小樽商科大学学術研究奨励事業
第17回「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評	3
審査員一覧.....	5

総 評

学生論文賞実施委員会
委員長 中村 健一

今年度は、学部生部門に22編の応募がありました。所属学科の内訳は、社会情報学科から12編と最多で、続いて商学科から8編、企業法学科から1編、経済学科から1編の応募となりました。

今年度もコロナ禍に見舞われ、文献の収集や調査などに一定の制約があったことと思われる。それにもかかわらず、多数の応募をいただいたことは、誠に喜ばしい限りです。

審査については、2段階審査で行いました。第1次審査は、22編について、多分野の研究に携わる21名の教員が、学術横断的な視点からプレゼンテーションの審査を行いました。第2次審査は、第1次審査を通過した10編について、論文内容に関連した研究に携わる20名の教員が論文の審査を行いました。

厳正な2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞2編、奨励賞6編、発想、着想、技術、論題、文章構成、構成美等際立って卓越した論文に授与される特別賞1編、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるベスト・プレゼンテーション賞1編となりました。

今回の応募論文は、いずれもさまざまな視点から現代社会にかかわる諸問題を解明しようという意欲的なものでした。これは応募されたみなさんの問題意識の高さを示すものですが、また分析手法においても新しい観点が発揮されたものが揃い、これらによって本賞はその水準の高さという名誉を得ることができました。

また応募された論文の水準の高さは、みなさんが論文執筆の経験を通じて単に主題に応じた特殊な論題について学んだだけではなく、より一般的に社会についての透徹した視点を獲得され、その洞察力を将来的に職業生活などを通じて、分析的あるいは総合的な判断力として遺憾なく発揮されていくであろうことを確信させるものでした。

今年度もコロナ禍にあって困難な状況にありましたが、ご多用中にもかかわらず、本論文賞の開催・審査にご協力いただいた教職員の皆様には、厚く御礼を申し上げますとともに、来年度もなにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して深甚なる謝意を表します。

審査結果一覧

ヘルメス賞

空の移動革命がもたらす都市構造の変化に関する研究
—通勤道路面積の減少を考慮した都市規模ならびに移動距離の試算— 佐々木 里実

優秀賞

リード・ユーザーの発見困難性に関する考察
—駅舎に魅力を見出す鉄道ファンを事例に— 遠藤 麻衣

自然言語処理モデル T5 を用いたオンライン小説タイトル生成手法
に関する研究 藤井 一志

奨励賞

楽天トラベルレビューで学習した BERT での小樽観光の感情分析 河野 由弥

交通目的により車両を階層分離した三次元交通システムの最適化 佐藤 香菜

アパレル製品選択におけるパーソナル・カラー認識の影響に関する
実証分析 中島 蘭

会話を対象とした性別による潜在的偏見調査のためのメタバース
に於ける実験環境の構築 阿部 遥

新卒就職活動におけるエントリーシートの比較分析 岡田 絢音

公共交通機関における優先座席の効果的な運用に関する調査
澤田 莉子
高田 夏光
西原 真美
福士 苑果

特別賞

リード・ユーザーの発見困難性に関する考察
—駅舎に魅力を見出す鉄道ファンを事例に— 遠藤 麻衣

ベスト・プレゼンテーション賞

公共交通機関における優先座席の効果的な運用に関する調査
澤田 莉子
高田 夏光
西原 真美
福士 苑果

ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

ヘルメス賞

「空の移動革命がもたらす都市構造の変化に関する研究
—通勤道路面積の減少を考慮した都市規模ならびに移動距離の試算—」

佐々木 里実

本論文は、大都市で必要とされる通勤道路の面積について数理モデルを用いて評価を行なった先行研究を応用し、将来において発展が期待されている3次元交通(エアモビリティ)が都市構造に及ぼす影響について考察するものである。

考察されている都市モデルは、中心部に円形の就業地、その外側を環状の住宅地が囲む円形都市である。先行研究ではその都市が複数の放射路とそれらをつなぐ多くの環状路を持つと仮定して必要となる道路面積の評価式を導いているが、本論文ではそのモデルを応用し、3次元交通の実用化により不要となる道路面積を算出することにより、3次元交通がもたらす都市のコンパクト化の上限を導いている。

また同じモデルを一定の仮定のもとで修正し、3次元交通によりコンパクト化が実現された都市において通勤者の移動距離がコンパクト化の実現前と比較してどれだけ削減されるかについての評価も得ている。

都市交通に関する既存の数理モデルをそのまま応用するだけにとどまらず、3次元交通に適用できる様にモデルを修正することにより、3次元交通が大都市とそこで働く通勤者の移動距離に及ぼす影響について評価し、具体的な数値例も挙げて考察しており、その内容は高く評価できる。

優秀賞

「リード・ユーザーの発見困難性に関する考察 —駅舎に魅力を見出す鉄道ファンを事例に一—」

遠藤 麻衣

本研究はユーザーイノベーションに着目し、エスノグラフィーによる「分厚い記述」を探求した定性的研究である。イノベーション研究の名著論文である von Hippel (1986) を中核としながら、「鉄道ファンによるイノベーションは発生するのか」を研究課題に設定した事例研究論文であり、地方における鉄道会社とユーザーの関係を令和の時代に再考している点で意義を持つ。現代におけるイノベーション研究は「テクノロジー（技術）が世の中を変える」という観点の論文が多い中、本研究は異彩を放っている。本研究の評価ポイントとしては、先行研究レビューの範囲、選定事例のオリジナリティが高い一方で、定性的な分析の精度や「分厚い記述 (Geertz,1973)」に研究上の課題がある。本研究はいくつかの課題を有しているものの、イノベーション研究の事例論文として一定の水準に達しており、特別賞に十分に値する研究である。

「自然言語処理モデル T5 を用いたオンライン小説タイトル生成手法に関する研究」

藤井 一志

本研究は、小説のあらすじからタイトルを自動的に生成するための方式を提案しており、さらに、その方式を基に小説タイトル生成システムを実装している。著者は、小説投稿ウェブサイト上の数多くの小説の中から読者に選ばれる小説を生み出すには、小説タイトルの特徴づけが非常に重要であると述べている。本研究では、あらすじに対する適切な小説タイトルの生成に、転移学習の手法のひとつである T5 (Text-To-Text Transfer Transformer) を適用している。実験的評価では、人手で与えた小説タイトルとの比較や複数の評価軸（文法の正しさ・あらすじとの一致度・独自性）から、提案方式により生成された小説タイトルの妥当性を議論しており、提案方式の有用性と有効性を示している。現状の提案方式では、まだ実用レベルに達していないものの、本研究は、今後の発展により実用方式となる可能性を持っており学生論文賞に値する。

審査員一覧

第1次審査員一覧 (50音順)

石井 登	石川 業	内田 純一	王 力勇
大津 晶	長村 知幸	小野塚 祐紀	片山 昇
堺 昌彦	佐山 公一	章 天明	ジョーダン チャールズ
須永 将史	田島 貴裕	玉井 健一	デバークヒラベ 良子
土居 直史	中村 健一	西口 純代	西出 崇
旗本 智之			

(以上 21名)

第2次審査員一覧 (50音順)

内田 純一	王 力勇	岡部 善平	長村 知幸
片岡 駿	木村 泰知	金 鎔基	近藤 公彦
佐藤 剛	佐山 公一	ジョーダン チャールズ	杉山 成
須永 将史	高橋 恭子	田島 貴裕	多田 伶
中島 大輔	深田 秀実	プラート カロラス	三浦 克宜

(以上 20名)